

## 大隅諸島黒島初記録の魚類 3 種および同島からこれまでに確認されている魚類の総種数

藤原恭司<sup>1</sup>・ジョン ビョル<sup>2</sup>・伊東正英<sup>3</sup>・本村浩之<sup>4</sup>

### Author & Article Info

<sup>1</sup> 国立科学博物館 (つくば市)  
 kyojifujiwara627@yahoo.co.jp (corresponding author)  
<sup>2</sup> 鹿児島大学大学院連合農学研究科 (鹿児島市)  
<sup>3</sup> 笠沙町漁業協同組合 (南さつま市)  
<sup>4</sup> 鹿児島大学総合研究博物館 (鹿児島市)  
 motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

Received 01 April 2022  
 Revised 04 April 2022  
 Accepted 05 April 2022  
 Published 06 April 2022  
 DOI 10.34583/ichthy.19.0\_19

Kyoji Fujiwara, Byeol Jeong, Masahide Itou and Hiroyuki Motomura. 2022. First records of three fish species from Kuro-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, Japan, and a review of fish species' numbers recorded from the island. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 19: 19–21.

### Abstract

Three fish species, *Halieutaea fitzsimonsi* (Gilchrist and Thompson, 1916) (Ogcocephalidae), *Cryptopsaras couesii* Gill, 1883 (Ceratiidae), and *Cephalopholis sexmaculata* (Rüppell, 1830) (Serranidae), are firstly recorded from Kuro-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, Japan, on the basis of single specimens, respectively. In addition, reassessment of literature treated fish species from the island in this study shows that a total of 168 fish species were recorded from Kuro-shima island.

大隅諸島の黒島は、鹿児島県の三島村に含まれる有人島で、同諸島の最西端に位置する。三島村は黒島の他に無人島を含む 4 島から構成され、これら 5 島の魚類については、近年、包括的な魚類相調査の結果として Jeong and Motomura (2021) によって 109 初記録種を含む 541 種が報告されている。この内、黒島からは 146 種が記録されており、その後の魚類採集によって、アミメフウリュウオオ *Halicmetus reticulatus* Smith and Radcliffe, 1912 とオロシザメ *Oxynotus japonicus* Yano and Murofushi, 1985 の 2 追加種が報告されている (橋本ほか, 2021; 佐藤ほか, 2022)。最近、黒島沖から同島および鹿児島県からの初記録となる魚類 3 種が得られた。また、著者らは黒島から得られた魚類を扱った文献の調査から新たに Jeong and Motomura (2021) では言及されていない報告を確認した。本研究では黒島における

魚類相の知見蓄積のため、上述の 3 種を報告するとともに文献による記録の整理を行ったのでここに報告する。

### 材料と方法

標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。標準体長は体長または SL と表記した。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。リスト中の各種の学名と科の掲載順は本村 (2022) にしたがった。黒島初記録となる魚類 3 種は、山田・柳下 (2013)、中坊・甲斐 (2013)、および瀬能 (2013) の検索にしたがって同定した。本報告に用いた標本と生鮮時の写真は、鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に所蔵されている。

### 黒島初記録の魚類 3 種

アカグツ科 Ogcocephalidae

*Halieutaea fitzsimonsi* (Gilchrist and Thompson, 1916)

オキアカグツ (Fig. 1A, B)

**標本** KAUM-I. 162673, 体長 121.0 mm, 黒島北方沖 (31°01'18"N, 129°59'37"E), 水深 384 m, 底曳網, 2021 年 11 月 20 日, 鹿児島県漁業協同組合南さつま支所所属の豊栄丸により採集。

**備考** 本標本は体が著しく縦扁し、円形の体盤を形成すること、背鰭軟条数が 5 であること、腹面が円滑で小棘を欠くこと、および体背面に黒色点から形成される左右対称の破線状模様があることからオキアカグツ *H. fitzsimonsi* に同定された。

オキアカグツの国内における記録は少なく、山田・柳下 (2013) によって千葉県館山と九州パラオ海嶺北部から報告された後、宮崎県の日向灘と門川から追加記録があるのみである (Iwatsuki et al. 2017; 村瀬ほか, 2021)。したがって、本研究で報告した黒島産の本種の標本は、鹿児島県からの初記録となる。

ミツクリエナガチョウチンアンコウ科 Ceratiidae

*Cryptopsaras couesii* Gill, 1883

ミツクリエナガチョウチンアンコウ (Fig. 1C)

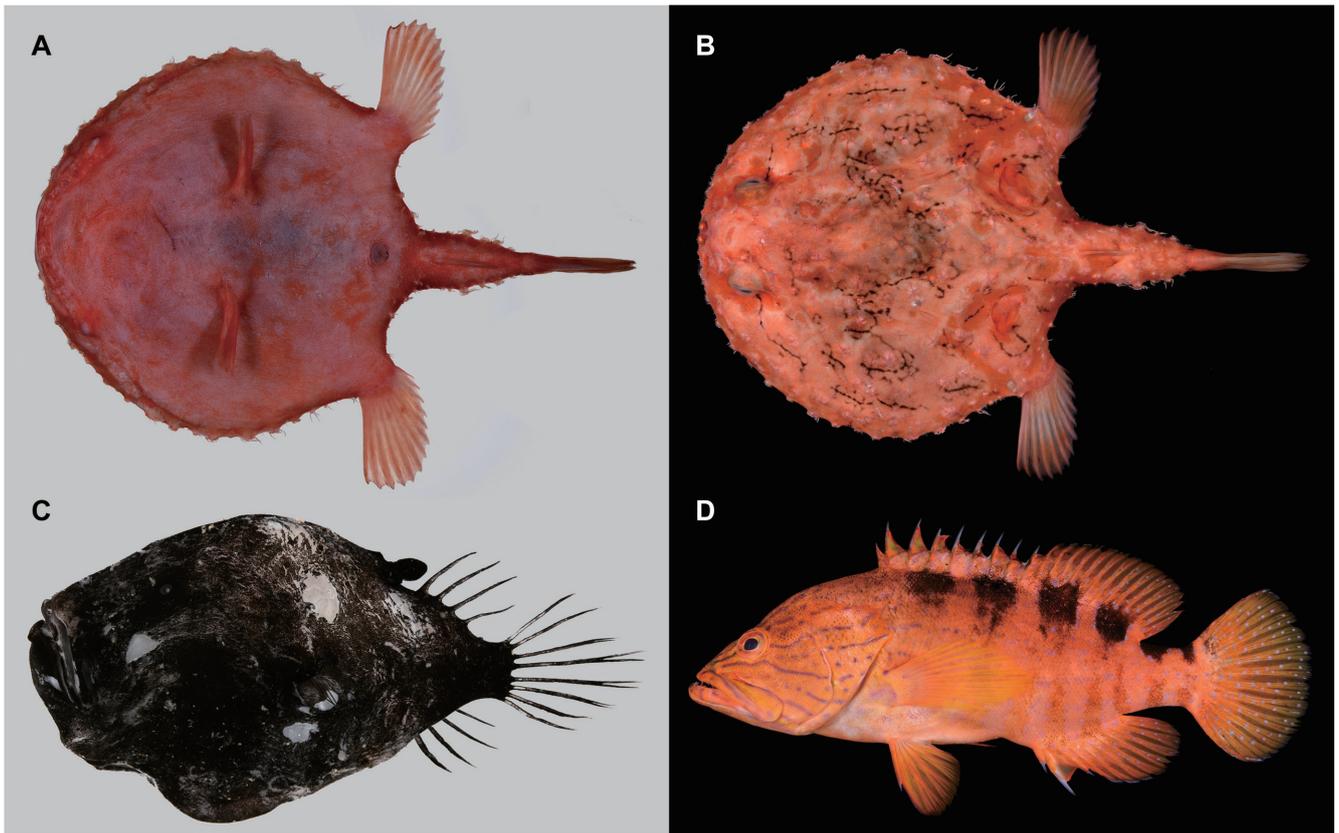


Fig. 1. Newly recorded fish species from Kuro-shima island. A and B, *Halieutaea fitzsimonsi* (Ogcocephalidae), KAUM-I. 162673, 121.0 mm SL; C, *Cryptopsaras couesii* (Ceratidae), KAUM-I. 162674, female, 51.2 mm SL; D, *Cephalopholis sexmaculata* (Serranidae), KAUM-I. 160255, 193.1 mm SL.

**標本** KAUM-I. 162674, 雌, 体長 51.2 mm, 黒島北方沖 (31°01'18"N, 129°59'37"E), 水深 384 m, 底曳網, 2021 年 11 月 20 日, 鹿児島県漁業協同組合南さつま支所所属の豊栄丸により採集。

**備考** 標本個体のイリシウムとエスカは完全に破損している。本標本は背鰭前方に肉質突起をもち, さらにその数が 3 つであることからミツクリエナガチョウチンアンコウ *C. couesii* に同定された。

ミツクリエナガチョウチンアンコウ科の国内における分布記録を総括した中坊・甲斐 (2013) では, 本種の国内における分布記録を北海道から静岡県駿河湾にかけての太平洋沿岸, 高知県の土佐湾, および沖縄諸島久米島沖の東シナ海とした。この他にも本種は鹿児島県の下甕島南方 (31°29'30"N, 129°30'12"E) と口之島西方 (30°10'42"N-30°14'00"N, 129°24'42"E-128°24'48"E) から 2 標本に基づき記録されている (庄嶋, 1984)。

ハタ科 Serranidae

***Cephalopholis sexmaculata* (Rüppell, 1830)**

コクハンハタ (Fig. 1D)

**標本** KAUM-I. 160255, 体長 193.1 mm, 黒島沖, 水深 140 m, 釣り, 2021 年 9 月 21 日, 原田善広。

**備考** 本標本は背鰭棘数が 9 であること, 胸鰭後縁が丸みを帯び, 中央部の軟条が最長であること, および尾鰭

が円形であることなどからユカタハタ属 *Cephalopholis* に同定され, さらに胸鰭と腹鰭が一樣に淡いオレンジ色であること, 体側から尾柄にかけての背部に黒色斑があること, 後頭部に暗い青色の破線状斑があること, および尾鰭に斜帯を欠くことからコクハンハタ *C. sexmaculata* に同定された。

本種はこれまで国内では伊豆諸島の八丈島, 小笠原諸島, 高知県の土佐湾, 宮崎県の日向灘, 大隅諸島の屋久島と硫黄島 (後者は水中写真のみに基づく), 奄美群島の奄美大島, 沖縄諸島, および八重山諸島から記録されており (瀬能, 2013; Iwatsuki et al. 2017; Nakae et al., 2018; Jeong and Motomura, 2021), 本研究によって新たに大隅諸島の黒島から標本が得られた。

#### 北島ほか (1976) が黒島沖から記録した魚類

九州南西海域におけるトロール調査の漁獲物を報告した北島ほか (1976) では, 32 調査地点 (網次番号として表記) の内, 2 地点 (網次番号 22・23) が黒島沖に含まれる (北島ほか, 1976: 図 1, 表 1)。この 2 地点からは 28 種の魚類 (未同定種を含む) が報告されている (北島ほか, 1976: 表 4) (標本の所在等は不明)。本研究ではこの 28 種の内, Jeong and Motomura (2021) でリストされていない 17 種を黒島から記録されている魚類の包括的な把握の一助として改めて以下にリストした。なお, 北島ほか (1976) のハウネンエ

ソ属, ホウネンエソ属の1種, およびチビキとして報告されている3種は, いずれも正確な種が判断できないので, 本研究のリスト中には含めなかった. 上述した黒島初記録の3種および本リストに挙げた17種によって, 黒島から確認されている魚類の総種数は168種となる(北島ほか, 1976; Jeong and Motomura, 2021; 橋本ほか, 2021; 佐藤ほか, 2022; 本研究).

**17種のリスト** ギンザメ *Chimaera phantasma* Jordan and Snyder, 1900 (ギンザメ科), フジクジラ *Etmopterus lucifer* Jordan and Snyder, 1902 (カラスザメ科), ツラナガコビトザメ *Squaliolus aliae* Teng, 1959 (ヨロイザメ科), アイザメ *Centrophorus atromarginatus* Garman, 1913 (アイザメ科), リュウグウハダカ *Polymetme elongata* (Matsubara, 1938) (ギンハダカ科), トカゲハダカ *Astronesthes ijimai* Tanaka, 1908 (トカゲハダカ科), トモメヒカリ *Chlorophthalmus acutifrons* Hiyama, 1940 (アオメエソ科), ハダカエソ *Lestrolepis japonica* (Tanaka, 1908) (ハダカエソ科), サンゴイワシ *Neoscopelus microchir* Matsubara, 1943 (ソトオリイワシ科), ヒロハダカ *Diaphus garmani* Gilbert, 1906 (ハダカイワシ科), ワニダラ *Hymenocephalus longibarbis* (Günther, 1887) (ソコダラ科), ベニマトウダイ *Parazen pacificus* Kamohara, 1935 (ベニマトウダイ科), カガミダイ *Zenopsis nebulosa* (Temminck and Schlegel, 1845) (マトウダイ科), ヒシマトウダイ *Xenolepidichthys dalgleishi* Gilchrist, 1922 (ヒシマトウダイ科), アカムツ *Doederleinia berycoides* (Hilgendorf, 1879) (ホタルジャコ科), ムツ *Scombrops boops* (Houttuyn, 1782) (ムツ科), タチモドキ *Benthodesmus tenuis* (Günther, 1877) (タチウオ科).

## 謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり, 鹿児島大学水産学部の原田善広氏および池端博文氏をはじめとする豊栄丸の皆さまには本報告で用いた標本個体を採集していただいた. 鹿児島大学大学院農林水産学研究科(当時)の中川龍一氏には文献調査にご協力いただいた. 鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには標本の登録作業においてご協力いただいた. さらに, Ichthy 担当編集委員である宮本 圭氏には原稿に対し適切な助言をいただいた. 以上の方々に対し, 謹んで感謝の意を表す. 本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿

児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた. 本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」, JSPS 研究奨励費(DC1: 19J21103), JSPS 科 研 費 (20H03311・21H03651), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型(CREPSUMJPJSCCB20200009), および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた.

## 引用文献

- 橋本慎太郎・伊東正英・大富 潤・本村浩之. 2021. 標本に基づく鹿児島県初記録のアカグツ科魚類アミメフウリュウウオ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 14: 26–30. [URL](#)
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27–55. [URL](#)
- Jeong, B. and H. Motomura. 2021. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five islands of Mishima in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 16: 1–116. [URL](#)
- 北島忠弘・田川 勝・岸田周三. 1976. 九州南海域の大陸斜面及び沖繩舟状海盆におけるトロール調査結果について. *西海区水産研究所研究報告*, 48: 47–92.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. [URL](#)
- 本村浩之. 2022. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 13. [URL](#)
- 村瀬敦宣・緒方悠輝也・山崎裕太・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏. 2021. 新・門川の魚図鑑: ひむかの海の魚たち. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡. 358 pp.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013. ミツクリエナガチョウチンアンコウ科, pp. 555, 1888. 中坊徹次(編)日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, 52: 205–361. [URL](#)
- 佐藤智水・ジョン ビョル・伊東正英・本村浩之. 2022. 大隅諸島黒島沖から得られた九州沿岸初記録のオロシザメ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 18: 1–5. [URL](#)
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科, pp. 752–802, 1960–1971. 中坊徹次(編)日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 庄嶋洋一. 1984. 産卵調査こぼれ話(9) ミツクリエナガチョウチンアンコウ. *西海区水産研究所ニュース*, 47: 2–8.
- 山田梅芳・柳下直己. 2013. アカグツ科, pp. 544–551, 1885–1887. 中坊徹次(編)日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.